

1. 日本への輸出増加

低価格のお陰で、衣料と革製品アイテムの需要が増え極東の国への輸出が増加し、日本はバングラデシュの製品の主な輸出先となった。輸出推進局(EPB)によると、日本の一般特恵関税制度に便乗してバングラデシュから日本への輸出は前年度の7億5027万ドルから2013-14年度は14.90%上昇して8億6208万ドルとなった。EPBによると、2008-09年度は日本への輸出はわずか7437万ドルであった。つまり2008年に中国への依存度を減少させるために、「中国ブラスワム」政策をとり、わずか5年間で7倍にも跳ね上がったことになる。日本には350億ドルのアパレル市場があり、この巨大市場の80%を中国が占めている。

2. 海外からの送金、16%上昇

バングラデシュへの海外からの送金は、8月に入り1年前に比べ16%上昇した。しかしバングラデシュ銀行のデータによると、14億9千万ドルを記録した先月よりも22.14%減少した。7月の受け取り送金記録により、今年度のバングラデシュの成長予想について評価機関ムーディは予想を5.8%から6%に引き上げた。世界銀行の研究によると、送金は消費と投資を増加させ、経済の活性化に大切な役目を果たしている。送金は支払いと当座預金の安定したバランスを保つのに役立っている。バングラデシュに入ってくる送金は、バングラデシュの経済成長を10年以上助け続けた。バングラデシュ銀行の分析によると、昨年は送金の受け取りが138億3千万ドルとなり、これはわが国の国内総生産の10分の1を占めた。

3. 女性労働力輸出増加

バングラデシュでは、女性の海外出稼ぎ労働者が増加している。ここ5年間で2倍に膨らんだ。2009年政府は22,224人の女性海外で稼いだ労働者を様々な国に送った。今年に入って最初の8ヶ月の間にその数は48,463人となった。労働雇用訓練局(BMET)によると、合計242,528の女性労働者が海外に出かけて行った。ここ2年間男性の労働者の雇用を差し止めているアラブ首長国連合(UAE)は、バングラデシュからの女性労働者のために雇用枠を拡大した。この国だけで今年の8月まで約15,000人の女性労働者を雇用している。ヨルダンやモーリシャスがリストの中でそれぞれ第2位3位になっている。オーストラリア、レバノンそしてカタールも、今年は多くのバングラデシュの女性労働者を受け入れている。バングラデシュ・オビバシ・モヒラ・シュラミク協会(BOMSA)によるとインド、スリランカそしてネパールの女性は家政婦としても看護婦としても働いているが、バングラデシュの女性は基本的に海外では家政婦として働いている。

400の縫製工場閉鎖、数千人失業

バングラデシュの既製服縫製(RMG)部門では、ラナプラザ崩壊惨事から400の工場が閉鎖され、数千人の労働者が職を失った。データによると、昨年4月24日に起きた約400の工場がラナプラザ崩壊の後閉鎖されている。このうち218がバングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)、180がバングラデシュ・ニットウェア・メーカー及び輸出業者協会(BKMEA)である。しかし部門のリーダーたちは十分な注文がないこと、工場安全基準がクリアできなかったこと、労働争議からの逃避、工場移転、そして高い賃金も閉鎖の理由であると考えている。この部門では、現在の会計年度の最初の2ヶ月間輸出目標を達成することができなかったことも閉鎖が原因としている。今年度の最初の2ヶ月でわが国のRMG部門は45億8600万ドルの外国為替の収入を設定していたが、輸出推進局のデータによると実際は43億2100万ドルの外国為替収入であった。ニットウェアの下請けでは22億5326ドルの収入を設定していたが、実際は目標に2.86%足りない20億634万ドルであった。織物下請け部門でも7-8月の目標23億3274万ドルに対し実際は13.17%不足し20億2454万ドルであった。アメリカ市場への輸出も減少している。アメリカ市場はバングラデシュアパレル製品のもっとも大きな輸出先の一つである。今年度の最初の2ヶ月間のアメリカへの輸出は昨年度の同期に比べ8.70%の低下を見せた。

5. アリانس、587縫製工場の検査終了

バングラデシュ労働者安全のためのアリانس(バングラデシュの衣料縫製工場で職場安全を改善するための北アメリカのアパレル会社、小売業者、ブランドのグループ)は、587の縫製工場を検査した結果、かなりの欠陥があることを明らかにした。アリانسの理事長メソバシ・ロビンは、アリانس事務所で工場安全検査の進展の経過をメディアの前で報告し、「それぞれの工場で改善をするために掛かる平均費用は25万ドルになり、50%の工場は既にこの改善が終了し

ている」と語った。

さらにロビンは、「アリアンスは既に目標にしていた工場を100%検査した。検査し587の工場の中で、16の工場の検査結果が専門家審議会に提出した。その内5つの工場は完全閉鎖、9つの工場は部分閉鎖、そして残りの2つの工場は工場の重量を減少させるに勧告した。改善工事のため閉鎖された工場から締め出された労働者の4ヶ月にわたる賃金のうち、アリアンスは2か月分の賃金を支払うことに同意した。約1000人の労働者にアリアンスから合計500万ドルが支給されることになる。その上、要求された修理を行うために工場に低利率で融資するため新しく2千万ドルの基金を立ち上げることをアリアンスは承認した。北アメリカのアパレル会社、小売業者そしてブランドのグループは労働者に匿名で報告することを許可した56の工場で、24時間ヘルプラインサービスを開始している。このサービスは今年の11月までに250の工場に広がることになっている。アリアンスは既に100万人以上の労働者に対し消火訓練を行い、97.8%以上の労働者たちが火災の際の正しい行動が取れるようになっている。引き続きアリアンスは厳しい安全水準を、全ての工場が満たすように工場改善に集中し実行していくことにしている」と話した。

6. アコード、アリアンスそしてBGMEAの不一致、職場安全計画に影響

現在行われている衣料工場アセスメント・プログラムで、アコード、アリアンスそしてBGMEA間での不一致がまだ解決されておらず、職場安全計画の遂行に影響が出ている。アリアンス会長エレン・タウシャーは、8月28日公式サイトで公表した声明の中で、「これはバングラデシュの衣料工場での安全に対する努力を逆行させるものであり、間違った情報に基づいている。アリアンスは600近い工場で第1回目の火災、電気そして建物構造安全検査を完了した。これらの検査のほとんどが資格を持った7人の検査官により行われた」と語った。さらにアリアンスによって行われた検査は、全て新しい水準が採用される前の水準も含めアリアンス、アコードそして国家3者委員会(NTC)により同意された安全水準を満たしていることを要求し、それに相当した検査工程は厳しく指導されている、と声明の中で語った。アリアンスはアコードに対し、長期にわたる同じゴール(全バングラデシュ衣料産業における永久の変身と改善)に達成するために、共同顧問委員会を結成し検査を受け入れることや、彼らの訓練プログラムなどのような他の分野でパートナーになることを求めている。

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)のリーダーたちは、二重の検査がメーカーの間で混乱を招き、彼らにとって新しい負担となり不必要な騒ぎに巻きこむことになったと言っている。アコードとアリアンスに参加調印したブランドのためにアパレル生産をしている工場は340から350の工場がある。一方、何度も会議を開いたにも拘らずアコードとBGMEAの間では不一致が残っている。BGMEAのリーダーとアコードの関係者は、8月24日問題を解決するために話し合いの場を持ったが、この話し合いでも結論が出なかった。アコードは顧問委員会にBGMEA代表も含めようとしている。しかしBGMEAはこの委員会は効果的な決議機関とは考えておらず、それには断固参加しないという姿勢をとっている。顧問委員会または運営委員会に参加するかどうかの口論の後、両者は必要に応じて話し合いの場を持ち、現在起きている問題を解決することで合意した。

7. VFとIFC、アパレル部門に1千万ドル融資

アメリカの大手アメリカアパレル会社であるVFコーポレーションは、国際融資公社(IFC)とチームを組み、バングラデシュ衣料(RMG)部門の火災建物構造安全を改善するために、1千万ドルを融資することにした。会社が発表した声明によると、これらの基金はバングラデシュ衣料労働者たちの厚生と安全に対して約束をした1700万ドルの一部である。この融資コミットメントで、VFはVFのサプライヤーに対しIFC改善融資のために会社保証を提供することになっている。更にこのプログラムでIFCは、VFの製品を生産しているバングラデシュの工場を運営し、融資受け取りの資格を得たサプライヤーに手ごろな費用で早急に必要な火災安全装置を整えたり、建物安全が改善されるように融資を与えることが可能になると付け加えた。資格を得たサプライヤーは、バングラデシュ労働安全協定に基づいて構造、電気そして火災安全設備のアセスメントを終了することになっている。VFはアコードのメンバーである。サプライヤーに対する融資はそれぞれ10万ドルから百万ドルとなっており、次の3つの適応可能なパフォーマンスのうちひとつを処理しなくてはならない。それらは環境的社会的リスクとインパクトのアセスメントとマネジメント、労働と労働条件のアセスメントとマネジメントまたは資源効率と汚染防止のアセスメントとマネジメントである。

8. ガス危機、RMG部門を襲う

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)のリーダーは、「もし政府が工場へのガスの供給を保証しなければ、245のユニットを閉鎖する。直ちにこの問題が解決されなければ、町に繰り出して抗議する」と主張した。彼らはパワー、エネルギー及び鉱物資源省の高官たちにも、「1日16時間以上ガスの供給がない」と非難した。エネルギー・鉱物資源局は、この問題を解決するためにペトロセンターで会議を開くことにしている。

BGMEA 会長 MD.アティクール・イスラムは、書簡で、「チャンドラ、イースト・チャンドラ、タリパラ、サルナ、サフィプール、カシムプール、コナバリ、ブゴラ、バソ、マレクバリ、ガジプールチョーラスタ、ガジプールサダールにある合計 245 の衣料ユニットが、ガスの供給が不足しているために、毎日 15 から 16 時間運転を停止せざるを得ない状態になっている」と書いている。彼はイード・ウル・アズハ(イスラム教の祭り)を目前に、また労働争議が起きるのではないかと心配している。BGMEA 会長はこの問題について 8 月 24 日に既に省庁に報告しているが、これに対して何の解決も行われていない。ペトロバングラ会長ホセイン・モンスール教授が、「衣料縫製工場へこれ以上余分にガスを配給しない」と述べた時、国務大臣、パワー、エネルギー顧問そしてペトロバングラ会長は非難を受けた。

ナラヤンゴンジとチッタゴンの衣料工場も深刻なガス危機に直面している。現在、国内の輸出収入の 81.13%は衣料部門から来ており、4 千万人の人々が直接間接的にこの部門に関わっている。4 つの工場が肥料の生産を再開した後、ここ 7 日間衣料縫製工場は深刻なガス危機に直面していると語った。その上、BGMEA のリーダーたちとの検討会議の間、大臣はペトロバングラの活動に不満を示し、次のように語った。「エネルギー・鉱物資源局の活動に私は満足していない」チタス・ガストランスミッション・アンド・ディストリビューション会社の代表取締役ノウシャド・イスラムは、「会社は様々な消費者のために配給される 2400mmcfid の内 800mmcfid のガスを産業工場に供給している」と言った。

9. RMG リーダーら、トゥバ・グループの再開要求

15 の既製服労働者協会のリーダーたちは、政府にわが国の利権のために、トゥバ・グループを再開させるように呼びかけた。彼らは工場オーナーに、現行の労働法により彼らの苦しみを終わらせるように賃金を支払うことも呼びかけた。彼ら労働雇用省を包囲していた時、この呼びかけを行った。衣料スラム・オイキヤ・フォーラム会長モシユレファ・ミシユは、「トゥバ・グループの 5 つの工場の労働者たちは、職を失ったため深刻な苦しみの日々を送っている」と言った。

10. 火災2件発生

9/08、DEPZ の消防団と民間防衛のシニア・ステーションオフィサーのハミド・ミアによると、夜 10 時ごろガジプール・シティ・コーポレーションのカシムプール地区にあるクールテク・マニュファクチャー・リミテッドという名の冷蔵庫製造工場から火の手が上がり、工場のあちこちに火が回った。報告によると、サバールにあるダッカ EPZ から 4 つの消防団が駆けつけ 2 時間にわたる必死の努力で火を消し止めた。この火災で起きた損失の規模はまだ判明していない。

また同日、同じディストリクトのカリアコイル・ウパジラのチャンドラ・パッリ・ビッチュト地区で、トタン作りの縫製工場から出る裁断端切れ倉庫が少なくとも 8 つ燃えた。カリアコイル消防団と民間防衛のステーションオフィサー、アブルバ・バアルによると、この地区のアルタブ・ホセインの所有する倉庫から、午前 5 時 30 分頃に火の手が上がり、直後に近隣の 7 つの倉庫にも火が回った。しかしこの火災の原因はわかっていないと彼は付け加えた。情報によるとガジプール、カリアコイル、タンガイルのミルザプールそしてサバール EPZ か 6 つの消防団が火災現場に駆けつけ 3 時間にわたる必死の消火活動で火を消し止めた。

11. 9/16、バングラデシュ衣料輸出博、パリで開催

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)は、フランスのパリで 3 日間にわたりバングラデシュの衣料アイテムの博覧会を開催すると発表した。9 月の 16 日から開催されることが決定し、「バングラデシュアパレル・アンド・テキスタイル・エキスポ 2014(BATEXPO 2014)」と名づけられたこの博覧会は、BGMEA が初めてパリで開催するものである。パリは市民がファッションに高い関心を持っている都市だ。衣料部門の投資家たちは、将来のヨーロッパ市場でのバングラデシュのアパレルイメージを明るくするきっかけになると考えている。BGMEA 筋によると、衣料及びテキスタイルメーカーとアクセサリ産業がこの博覧会に参加できる。バングラデシュから約 50 のアパレル、テキスタイル及びアクセサリメーカー会社が既にこのエキスポに参加するため登録している。エキスポに参加するために、BGMEA の会員は 150,000 タカを、BGMEA の会員でなければ 250,000 タカを支払うことになっている。わが国のフランスへの輸出は徐々に増加している。

12. テキスタイル競争力増加のため技術革新の必要生を強調

産業大臣アミール・ホセイン・アムーは、「技術革新と新生産技術の導入が、わが国のアパレル・テキスタイルの競争力を更に強化するキーになる」と語った。産業大臣は市内で行われる 4 日間にわたるテクステック・バングラデシュ・インターナショナル・エキスポ 2014 の開会を宣言した。イ・ユンヨン韓国大使、BGMEA 会長 M.アティクール・イスラム、BKMEA 第一副会長モハメド・ハテムそして CEMS-グローバル USA アンド・アジア・パシフィックグループの代表取締役メヘルン・N.イスラムも、この催しでスピーチをした。バングラデシュは 2013-14 年度には海外取引で 301 億 7 千万ドルの収入があり、その内アパレル部門は 244 億 9 千万ドルであった。2012-13 年度ではバングラデシュの合計輸出高は

270億1千万ドルであり、そのうちニットウェア、織物そしてホームテキスタイルを含めたアパレル部門は215億1千万ドルを占めた。この博覧会では、テキスタイルとRMG部門分野において、世界中10カ国から500にのぼる外国の生産会社が彼らの最新技術と革新技術を紹介している。

13. GSP、パキスタンに有利か？

欧州連合(EU)の新一般特惠関税制度(GSP)は、既製服(RMG)部門にはわずかに影響するかもしれないが、欧州へのバングラデシュの輸出にはほとんど影響しないであろう。今年の1月1日から導入された新GSPはRMG部門にはわずかに影響するが、それは心配するほどのものではない。さしあたりバングラデシュの輸出、特にRMG部門では影響しないが、長期にわたるとパキスタンのような競合国がその能力を強化することによって、ヨーロッパ市場を掴む可能性がある。今年の最初の5ヶ月(1月—5月)には欧州市場への輸出は、昨年の同期に比べ11%増加した。一方パキスタンの輸出は同じ時期27%の成長を見せた。バングラデシュの織物やニット製品のヨーロッパへの輸出はパキスタンの輸出成長よりも少ない成長率であった。

タウフィック・エ・エラヒ・チョードリ博士は、「7つのRMG輸出国のうちパキスタンが一番高いレベルで恩恵を受けると見ている。パキスタンの輸出は新GSPのために10億ドルに上昇すると可能性がある。パキスタンは、中国、インド、トルコ、バングラデシュ、そしてスリランカが失ったシェアを獲得すると見られている。バングラデシュが国際取引で力を持ちたいならば、もっと新しい部門を開拓するべきである。品質のよい産業製品の生産性を増加させながら、バングラデシュは今こそハイテク製品に注目するべきである」と述べた。

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)会長アティクール・イスラムは、「ヨーロッパ市場でのGSP制度はわが国のRMG産業でとても重要なものである。RMG部門はラナプラザ崩壊とその災害の後遺症のために深刻な困難に直面している」と語り、バングラデシュ国内及び国外のRMGの状態に対し、メディア宣伝に対しても非難している。ダッカEUミッションの局長大臣カウンセラー、フレデリック・マドラウドは、「ラナプラザ惨事の後行われた様々なイニシアチブに満足を表している。トゥバ・グループについては工場のオーナーが労働者たちに自分の土地を売って賃金を支払ったのは大きな変化だ」と述べた。

14. アパレル輸出増大のため、BRICSへ挑戦

バングラデシュは、世界を股にかけ成長している国々で新しい市場を開拓するために、BRICSに注目している。アパレルメーカーたちはこの5つの新興国が、既製服(RMG)の可能性の高い市場と考えている。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)会長アティクール・ラハマンは、商務省(MoC)にあてた書簡の中で、「BRICS諸国によるアパレル輸入は年々増加している。主な理由は彼らの経済が豊かになるにつれてBRICS諸国での生産コストが著しく増加しているからだ。障害が取り除かれれば、バングラデシュはブラジル、ロシア、インド、中国そして南アフリカの拡大していく市場を獲得することができると考えている。現在、バングラデシュは免税制度を使い中国とインドにアパレルを輸出しているが、ロシアとブラジルへの輸出は“高い税金”のため困難になっている。ロシアは2011年世界貿易機関に加盟した。後発開発途上国のひとつであるバングラデシュはロシアで関税優遇を受ける余地がある。政府はこの可能性を実現させるために適切なステップを取る必要がある。しかし中国とインドへのバングラデシュからの輸出も、ランド・ポート・オペレーションやそのほかインフラ機関、研究所の公認、ビザ発行の非協力的な姿勢、非関税と不規則な関税バリアなどの弱点が障害になってきている」と語っている。

以上